長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2022 OCTOBER VOL.406

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



日本一離島の多い長崎県。空から離島の医療を救うシステム「RIMCAS：離島等医療連携ヘリ事業」の基地に訪れたヘリドッグ太くん。
RIMCASヘリは水曜日（不定期）、当院の患者さんのためにも飛んできてくれます！！

TOPICS
- 院内ラウンドを終えて
- 新任医師紹介
- 第76回国立病院総合医学会
  当院演題一覧
- 第63回 日本肺癌学会九州支部
  学術集会
  第46回 日本呼吸器内視鏡学会
  九州支部会

院内さるく　医療安全管理室

冬の医学生見学会のお知らせ

医療コラム Vol.1

薬剤部だより Vol.6

看護部だより Vol.45

外来診療担当医一覧

長與 專齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

TOPICS

院内ラウンドを終えて

院長　八橋 弘

2022年の7月と9月に院内ラウンドを実施しました。今年の院内ラウンドは、コロナ後を見据えつつ、今後本格化する働き方改革も意識した上で、長崎医療センターにおける新たな医療について皆さんと共に明確化することを目的としました。実施方法を昨年までの病棟単位/部門単位ではなく診療科単位/部門単位とし、また事前に各診療科責任者（部長、医長）及び部門責任者の方々には、今後の各診療科や各部門が目指す医療の方向性や特色について、5つ以内のキーワード（疾患名やプロジェクト名など重視する順番に）と200-300文字以内に記述したものを事前に作成していただきました。実際の院内ラウンドの時には、各診療科や各部門に対する思いを語っていただきながら、現場で困っていることや問題点については、病院が協力することで解決できないか模索しました。院内ラウンドを終えての私の感想は、責任者である皆さんが、この病院をできるだけ良いものにしようと懸命に考えておられることが伝わってきて、とても有意義であったと思いました。



TOPICS

新任医師紹介



内科部長
今泉（いまいずみ）　芳孝（よしたか）

10月より内科に赴任しました。専門は血液内科です。前任地は長崎大学病院で、主に悪性リンパ腫の診療に携わってきました。県央地区で勤務させて頂くのは初めてとなります。他の診療科や医療スタッフの方々と連携して、患者さんによりよい医療が提供できるように診療に取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



放射線科医師
宮村（みやむら）　周人（しゅうと）

10月より赴任しました。宮村周人と申します。山形大学を卒業後、地元である長崎に戻り、長崎大学病院の研修プログラムでの2年間の初期研修の後に長崎大学病院放射線科に入局しました。その後は長崎大学病院と諫早総合病院での勤務を経て、放射線科診断医として現在5年目となります。IVRについても積極的に取り組んでおります。日々の診療で皆様の役に立てるよう尽力してまいります。よろしくお願いいたします。



産婦人科専攻医
小川（おがわ）　真幸（まさゆき）

医師5年目、当院産婦人科専攻医プログラム3年目の小川真幸と申します。約1年間の連携施設での研修を経て、戻って参りました。よろしくお願い致します。



内科専攻医
山中（やまなか）　萌奈美（もなみ）

卒後5年目内科専攻医の山中萌奈美と申します。10月から総合診療科で研修中です。ご迷惑を多々おかけすると思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

TOPICS

第76回国立病院総合医学会　当院演題一覧



セッション	演題名	演者	所属
シンポジウム	長崎医療センター小児科における地域との連携	青木 幹弘	小児科
	当院における病院前救急医療活動報告	中道 親昭	高度救命救急センター
	The role of fascia iliaca compartment block for pain management in geriatric hip fracture.	田崎 海斗	整形外科
	働き方改革時代に診療看護師（JNP）をどう育成していくか 長崎医療センターでのJNP 大学院卒後研修の新たな取り組み	伊藤 健大	診療看護師（JNP）
	地域の特性をふまえた地域包括ケアシステムづくりに国立病院機構が果たす役割とは～急性期病院の立場で～	田中 圭	医療相談支援センター
	リハビリテーション科におけるCOVID-19感染患者対応について～介入開始から現在、これからに何を活かせるか～	田口 志津	リハビリテーション科
パネルディスカッション	自傷行為のため救急外来を受診した患者についての考察	蓬莱 彰士	精神科
	長崎医療センターにおけるサイバー攻撃時対応事業継続計画（BCP）策定について	尾崎 真人	診療情報管理室
口演	Vf の初期治療に難渋したカテコラミン誘発多形性心室頻拍（CPVT）	桑原 義典	小児科
	全身状態に一致しない酸素飽和度低下から低酸素親和性異常ヘモグロビン症(Hb Titusville)と診断した幼児	蟹江 信宏	小児科
	増大傾向を呈する成人円蓋部くも膜嚢胞の1症例	後藤 純寛	脳神経外科
	急性期脳神経外科患者に対する経腸栄養プロトコルの導入と課題	森塚 倫也	診療看護師（JNP）
	NICUにおける8cm PICC導入の効果―末梢ルートとの比較検討―	津野崎 絹代	診療看護師（JNP）
	脳卒中患者の経管栄養による下痢発生時の看護師対応に関する意識調査	富永 大志	看護部（3B）
	大腸内視鏡検査前処置に対する病棟看護師の認識～前処置における統一した観便を目指して～	村上 由記子	看護部（治療検査センター）
	大腸内視鏡検査前処置に対する病棟看護師の認識～大腸内視鏡検査説明会前後の腸管洗浄度の変化～	高月 恵美	看護部（治療検査センター）
	術後患者における睡眠バンドル導入の効果に関する研究	内野 佳樹	看護部（3A）
	災害発生時に病棟看護師が行う初期対応の評価-eラーニング学習・勉強会・病棟独自の災害訓練実施前後の比較-	松本 千佳	看護部（7B）
	当院における免疫組織化学用マルチコントロールの作製と運用について	城 竜人	臨床検査科
	長崎県県央地区における肺炎球菌ワクチン定期接種化後の侵襲性肺炎球菌の発生動向とワクチン応答性に関する検討	岩永 真悟	臨床検査科
	当院における新生児から乳児早期の脊髄超音波検査の実施状況	手嶋 翔一朗	臨床検査科
	経大腰筋経路腰椎椎体間固定(XLIF)を施行後に重度の神経障害性疼痛を呈した1症例～運動教育に着目して～	東 隼	リハビリテーション科
	人工呼吸器管理された重症患者におけるICU 獲得性筋力低下（ICU-AW）のリスク因子の検討	吉永 龍史	リハビリテーション科
	ROC解析による亜鉛欠乏症の指標を検討する　～血清アルカリホスファターゼ(ALP)は指標になりうるか～	安藤 翔治	栄養管理室
	長期グルココルチコイド治療が血清銅・亜鉛濃度に与える影響の検討	安藤 翔治	栄養管理室
	在宅酸素療法患者のよりよい医療サービス提供を目指して―だれでも使える在宅酸素療法マニュアルの作成―	實藤 美香	医療相談支援センター
ポスター	小耳症手術後の移植軟骨Framework露出に対するSalvage surgery	藤岡 正樹	形成外科
	早期の軟部組織再建がGA3BC型骨折の社会復帰を早める: “Fix after Flap”の可能性の提言	藤岡 正樹	形成外科
	アルカリ損傷の経時的皮膚障害の病理学的検討	藤岡 正樹	形成外科
	骨露出創に植皮する	藤岡 正樹	形成外科
	フルニエ壊疽で直腸が露出した場合、人工肛門を要するか?	藤岡 正樹	形成外科
	Cobb syndrome患者に生じた頸部リンパ管奇形の治療経験	吉野 健太郎	形成外科
	心不全症状を来したパークスウェーバー症候群に対して塞栓-硬化療法を用いて心機能の改善を認めた症例	吉野 健太郎	形成外科
	手根中央関節開放性脱臼骨折の治療経験	吉野 健太郎	形成外科
	乳児血管腫に対してプロプラノロール内服導入後より徐脈を呈したため中止とした一例	吉野 健太郎	形成外科
	外傷により発生したと考えられた頭部皮膚血管肉腫の一例	吉野 健太郎	形成外科
	陰部壊死性筋膜炎から尿道瘻孔を形成した1例	出光 茉莉江	形成外科
	長崎県における自治体主導のてんかん診療連携ネットワークのねらい	田中 圭（代） 小野智憲	医療相談支援センター てんかんセンター
	極低出生体重児及び超低出生体重児における血清IgG値の推移についての検討	種岡 飛翔	小児科
	18トリソミーに肥厚性幽門狭窄症を合併した乳児例	萩原 朋也	小児科
	TAFRO症候群様症状に対する治療により腫瘍崩壊症候群を来たし、病理解剖にてDLBCLの診断に至った一例	梅木 悠希	総合診療科
	当院におけるパラフィン包埋切片を用いた遺伝子変異解析不能例の検討	佐藤 俊輔	病理診断科
	肝臓内科病棟における転倒転落事例の発生傾向と要因に関する研究～過去3年分のデータ分析より～	黒田 麻依香	看護部（8A）
	認知機能低下がある患者への説明と同意の技術 ―治療や検査に拒否のある患者への熟練看護師の対応―	山下 主税	看護部（9B）
	長崎県内で発生した新型コロナウイルス感染症による施設クラスターに対するDMAT支援-現場における施設職員の意識変容への取り組み-	百枝 裕太郎	看護部（3A）
	精神疾患合併妊産婦の早期から切れ目ない養育支援体制の再構築に向けた院内システムの検討	大迫 朝子	医療相談支援センター
	離島等医療連携ネット(RIMCAS)を使用した離島への転院支援の実態報告～地域医療連携室、退院支援担当者の立場から～	龍田 彩加	医療相談支援センター
	長崎県てんかん地域診療連携体制整備事業の取り組み コーディネーターによる相談支援	實藤 美香	医療相談支援センター
	急性期病院の入退院支援の質を向上させるための取り組み～入退院支援コアナース会議（研修）の立ち上げと運営について～	高崎 美穂	医療相談支援センター
	バルサルバ効果を考慮した肺動脈撮影の検討	下田 将輝	診療放射線部
	放射線部における0レベル報告書の作成及び分析	石田 秀樹	診療放射線部
	内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査における放射線防護具の有効性の検討	米丸 雄太	診療放射線部
	がん患者における亜鉛（Zn）製剤投与に関する研究	松藤 敬	薬剤部
	同種抗体と温式自己抗体の産生により製剤選択に苦慮した1症例	黒田 拓也	臨床検査科
	日本人MCTD患者ではHLA-DRB1*04:01/*15と*09:01/*15 が増加している	岡 笑美	臨床研究センター
	リウマチ性多発筋痛症のUBA1遺伝子解析	樋口 貴士	臨床研究センター
	妊婦における腰痛骨盤痛の重症度と筋量との関連性について	林 勝仁	リハビリテーション科
	ＮＳＴ介入が奏功した低栄養を有する３度熱傷患者の１例～重症熱傷の回復期までの摂取栄養量の報告～	山下 真喜子	栄養管理室
	外来化学療法センターにおける継続的な栄養指導の取り組みについて	淵邊 まりな	栄養管理室
	救急医療管理加算算定における医師の業務効率化とチームとしての算定増への取り組み	尾崎 真人	診療情報管理室
	増収にむけての経営企画室としての取組	須股 豊智	経営企画室
	ベッドセンターの再構築及び業務改善について	稗田 聖士	事務部企画課
受賞講演	画像診断報告書の予期せぬ重大所見の確認に関する多職種による医療安全対策	田中 久美	看護部（九州医療センター）

ベスト口演賞、ベストポスター賞受賞

第63回 日本肺癌学会九州支部学術集会
第46回 日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会

治療研究部長/呼吸器外科部長　田川 努



呼吸器外科の田川 努です。この度2023年2月10日～11日の2日間、出島メッセ長崎で開催される第63回日本肺癌学会九州支部学術集会、第46回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会の会長を務めさせていただくことになりました。市中病院の医師が会長を務めるのは11年ぶりと大変名誉なことであり、これも長崎医療センターが常々質の高い医療を提供しているおかげと、皆様に深く感謝申し上げます。

学会テーマは「語り継ぎたい肺癌学と気管支学」と致しました。肺癌、気管支鏡診療において、最新の検査法と診断そして治療を学ぶとともに、先達の多くの経験と技を若い世代に伝える学会としたいと考えております。開催にあたっては、ご協力などお願いすることがあるかもしれません。どうぞよろしくお願いいたします。

院内さるく

医療安全管理室





今年度の医療安全管理室は、新たに黒木副院長をお迎えし活動しています。医療安全管理部門に係る担当者で毎週カンファレンスを行い、事例の共有や医療安全管理のための啓発や広報について検討しています。

医療安全管理委員会では医療事故報告の情報共有や医療安全に関する研修・他施設との活動について検討し承認を得ています。当院がより患者にとって安心した療養生活を送ることができるような環境を整えていきたいと思います。

冬の医学生見学会のお知らせ

冬の医学生見学会を開催いたします。お気軽にお問合せください。

【対　　象】 医学部4・5年生
【見学期間】 **2022年12月13日（火）～12月23日（金）**
※火曜～金曜日
【募集学生人数】 1日に5名程度。
【応募期間】 2022年12月1日(木)より募集開始
【申込方法】 当院ホームページ(https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/)をご覧ください。

医療コラム Vol.1

脂肪肝といわれたら？ 非アルコール性を中心に



難治性疾患研究部長　小森 敦正

脂肪肝とは？



余分なエネルギーが、肝臓の中に脂肪滴（中性脂肪）として、一定量（肝臓組織の面積当たり5%）以上たまってしまった状態です。検診で（偶然）に発見されることが多いのですが、そのままにされることも少なくないでしょう。男性では一日当たりの純アルコール量で30g（ビール大瓶1本強）、女性では20g未満に飲酒量が収まっている場合、非アルコール性と定義されます。

非アルコール性です。病気ですか？



私の外来では、生活習慣病（メタボ）の肝臓版“イエローカード”と説明しています。余分なエネルギーをため込む生活習慣がある/あったことのサインです。将来的に生活の質が落ちたり、肝臓関連の症状が出現する可能性がある状態まで進んでいる場合（非アルコール性脂肪性肝炎）は、肝臓病として考えて良いでしょう。

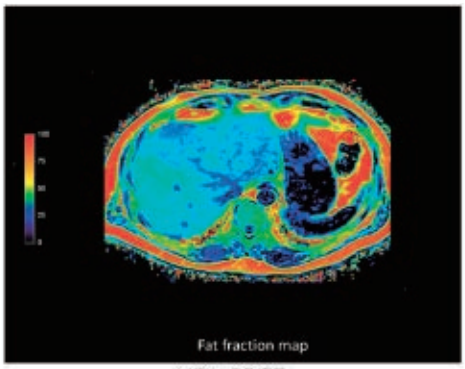


フィブロスキャン

©2022 Integral Corp.

非アルコール性脂肪性肝炎の診断法は？

細い針を肝臓に刺し組織の一部を採取し、病理学的に確認することが、現在も世界標準の診断法です。入院検査になること、ごく少ないながらも検査のリスク（針を刺す）はあることから、負担の少ない代わりの検査が、外来で利用されています。ア）肝機能検査（採血）結果を使った予測（FIB4 index）、イ）お腹の上から振動と超音波を肝臓にあて、肝臓の硬さ（硬度）と脂肪量を計る検査（フイブロスキャン）、ロ）磁場による肝臓内の脂肪量測定（MRI-PDFF）、ハ）磁場による肝硬度測定（MRE-elastography）があります。ア）はかかりつけ医の先生により、もしくはご自分でアプリなどでも計算できます。一定の数字を越えた場合は イ）の測定をお勧めします。当院は イ、ロ）が検査可能な、県内でもごく限られた病院です。イ、ロ）により脂肪性肝炎と診断された場合も、生活習慣の見直しが治療の原則ですが、薬物療法の開発（治験）も世界で進んでいます。次回をご期待下さい。



MRI-PDFF　㈱フィリップスジャパンより提供

肝臓検査.com
FIB4indexが計算できるサイトです

©肝臓検査.com

薬剤部だより Vol.6



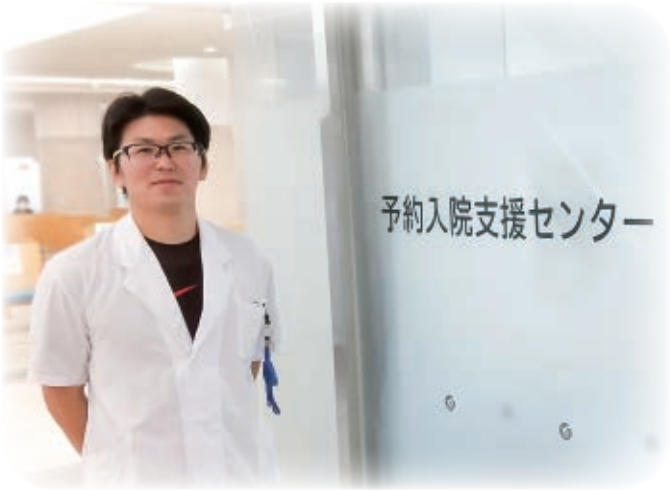
予約入院支援センターにおける薬剤師の業務について

薬剤部薬務主任　大津 貴寛

1. 予約入院支援センターについて

当院は全643床(一般610床、精神33床)を有し、各科がん領域の手術を含め、骨折や人工関節置換術(THA、TKA)、透析準備の内シャント設置、内視鏡下鼻副鼻腔手術(ESS)など診療科ごとで専門的な手術が行われています。

外来受診後手術が決定することが多く、入院予定患者は各種手続きや準備物品などの説明を受ける必要があり、入院に対する患者不安を軽減することを目的として2012年4月に予約入院支援センターが設立されました。







2. 薬剤師業務について

予約入院支援センターにおける薬剤師の主な業務は、お薬手帳や薬剤情報提供書などから入院予定患者さんの常用薬のチェック(処方医療機関名、医薬品名や用法・用量など)を行うことです。抗凝固薬や抗血小板薬といった術前中止薬の中止確認を充実することにより、手術延期などを未然に防ぐ等の医療安全面に寄与しています。術前中止薬がある場合には電子カルテや面談により医師からの中止指示を確認し、指示がなければ直接主治医へ問い合わせを行っています。問い合わせ後に中止指示となった場合は、必要に応じて主治医に代わり薬剤師が中止の旨を患者さんに説明することもあります。また保険薬局で術前中止薬が一包化されているケースもあるため、中止薬の抜き取り作業や、かかりつけ薬局への抜き取り依頼書の作成などを行うこともあります。

今後も患者さんの状態やニーズに合わせ、安全かつ安心して入退院が出来るよう患者さんをサポートしていきたいと思います。

看護部だより Vol.45

3B病棟の紹介

3B病棟（脳神経疾患センター）は、脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）をはじめとする脳血管障害や神経難病、てんかんなどの患者さんが入院されています。突然の発症で入院される患者さんが、元気な時はどんな生活をされていたのか、どんな声なのかを考えながら、看護部の理念である「その人がその人らしく」を取り戻していただけるよう看護を行っています。

魅力その1

救命病棟から転棟となる人工呼吸器・ドレーン管理等の多くの支援が必要な重症患者さんも多く、専門的知識と共に体力も必要な病棟です。患者さんの回復そして御家族の笑顔を見ることができるよう、私たちも笑顔で頑張っています。

魅力その2

患者さんの早期離床、早期回復を多職種スタッフで支援しながら、安心して退院できるよう積極的にカンファレンスをしています。
離島からの患者さんに対しては、離島等医療連携ヘリ（RIMCAS）を利用しての転院調整も行っています。





JNPを含めたくさんの男性看護師も活躍しています！

イチオシさん



外来診療担当医一覧表

受付時間　8時30分～11時30分（ただし急患はその限りではありません。）

（★は新患対応）令和4年11月1日現在

		月	火	水	木	金
総合診療科		当番制	当番制	当番制	当番制	当番制
肝臓内科		★長岡　進矢 ★末廣　智之 ★松本　耕輔 ★山﨑　一美	★佐伯　哲 ★末廣　智之 ★釘山　有希	八橋　弘 ★小森　敦正 ★山﨑　一美	★長岡　進矢 ★本吉　康英 ★小森　敦正	★本吉　康英 ★釘山　有希
消化管内科		午前　若松　彩 濱崎　俊輔 午後　★西山　仁	★後藤　高介 ★三根　祥一郎	★西山　仁		★中島　悠史郎 （炎症性腸疾患　専門外来） ★今村　祥子
内分泌・代謝内科		★安井　順一 ★中村　公隆 渡部　太郎	★渡部　太郎 安井　順一 中村　公隆	★安井　順一 渡部　太郎	★渡部　太郎 安井　順一	
腎臓内科		★岡　哲 山下　由恵		★池見　悠太 岡　哲	山下　由恵	★山下　由恵 池見　悠太
循環器内科	午前	★於久　幸治	★福田　侑甫	森　彩	★松尾　崇史 ★石松　卓（不整脈）	★深江　貴芸
	午後	★鶴川　晃二郎	★石松　卓（不整脈） ★福田　侑甫	於久　幸治	石松　卓（不整脈）	
呼吸器内科		★原　敦子 池田　喬哉	★森　麻耶子	近藤　晃 ★池田　喬哉	★井手口　周平	★近藤　晃 原　敦子
血液内科		小林　裕児 ★榊　智佳	★今泉　芳孝	吉田　真一郎	今泉　芳孝 ★小林　裕児	午前　吉田　真一郎 午後　★桐野　祐子
脳神経内科（神経内科）		午前　★徳田　昌紘 午後　忽那　史也	★岩永　洋	徳田　昌紘		★岩永　洋
膠原病・リウマチ内科		★岡田　覚丈		★岩永　希	★岩永　希	午後　★岡田　覚丈
小児科	午前	★末永　英世（新生児・乳児） ★桑原　義典（心臓） ★本田　涼子（神経） ★種岡　飛翔（一般・心臓）	★安　忠輝（神経） 田中　茂樹（神経） 本村　秀樹（心臓） ★石橋　洋子（一般・心臓） ★石川　太郎（一般）	★青木　幹弘（新生児・乳児） ★和泉　啓（内分泌） 内分泌（当番医） ★本田　涼子（神経） ★島崎　敦（一般・神経） ★種岡　飛翔（一般・心臓）	★桑原　義典（心臓） ★西口　亮（第1・3・5） （新生児・乳児） ★山根　友里子（第2・4） （新生児・乳児） ★石川　太郎（一般）	本村　秀樹（心臓） ★青木　幹弘（新生児・乳児） 安　忠輝（神経） ★島崎　敦（一般・神経） ★大塚　圭祐（新生児・乳児）
	午後	本村　秀樹（心臓） 発達外来	田中　茂樹（神経） ★本村　秀樹（心臓） 安　忠輝（神経）	一ヶ月健診 ★大学医・当番医（内分泌）	発達外来	シナジス外来
精神科		★倉田　青弥 蓬莱　彰士	★倉田　青弥 蓬莱　彰士 志方　有莉	★蓬莱　彰士	★蓬莱　彰士 志方　有莉 倉田　青弥	★志方　有莉 倉田　青弥
皮膚科		★石川　博士（外来新患） 冨野　千愛（入院対診） ★清原　龍士（第1外来新患） 清原　龍士（第3入院対診）	★冨野　千愛（外来新患） 石川　博士（入院対診）	★石川　博士（外来新患） 冨野　千愛（入院対診）	★冨野　千愛（外来新患） 石川　博士（入院対診）	★石川　博士（外来新患） 冨野　千愛（入院対診）
外科		★黒木　保（胆・膵） 岡本　辰哉 （胆・膵、一般外科）	★三好　敬之 （消化器、一般外科）	★北里　周（肝、一般外科）	★米田　晃 （食道・胃・一般外科）	★竹下　浩明 （大腸・肛門・一般外科） 藤岡　ひかる （肝・胆・膵・消化器）
乳腺・内分泌外科			★前田　茂人 ★杉山　望		★前田　茂人 ★杉山　望	
呼吸器外科				★田川　努 ★下山　孝一郎		
緩和ケア科			濵脇　正好	濵脇　正好	濵脇　正好	
心臓血管外科				★有吉　毅子男 ★松隈　誠司 田口　寛子		★有吉　毅子男 ★松隈　誠司 田口　寛子 濵脇　正好（再来のみ）
脳神経外科		★小野　智憲 ★原口　渉	★案田　岳夫	★定方　英作	原口　渉	★小野　智憲 ★川原　一郎
整形外科		★宮本　俊之 中川　皓一朗	山口　圭太（★第1・3・5） （再第2・4） 大場　陽介（★第2・4） （再第1・3・5） 向井　順哉	★森　圭介 熊谷　謙治	★中川　皓一朗 森　圭介	★向井　順哉 大場　陽介（第1・3・5） 山口　圭太（第2・4）
形成外科		★藤岡　正樹 ★出光　茉莉江	★吉野　健太郎	★福井　季代子	★藤岡　正樹 ★吉野　健太郎	★福井　季代子 ★出光　茉莉江
産婦人科		★古賀　恵 ★福田　雅史	★安日　一郎 ★山下　洋	★菅　幸恵 ★杉見　創 産褥1ヶ月検診（午後）	★五十川　智司 ★山口　純子 産褥1ヶ月検診（午後）	★安日　一郎 ★福田　雅史
泌尿器科		★大仁田　亨 ★錦戸　雅春	松屋　福蔵	★錦戸　雅春	★岩田　隆寿	★大仁田　亨 ★本多　弘幸
移植後フォローアップ外来		錦戸　雅春	松屋　福蔵	錦戸　雅春	岩田　隆寿	大仁田　亨
耳鼻咽喉科		★田中　藤信 ★松本　浩平 ★松井　彰子	★小野　晋太郎	★田中　藤信 ★松本　浩平 ★松井　彰子	★松本　浩平 ★吉田　晴郎（第1・3）	★田中　藤信 ★小野　晋太郎
眼科		★前川　有紀 時村　源一郎 大槻　早紀 吉村　遥香 髙尾　美貴	★前川　有紀 時村　源一郎 丸田　知央子（10:00~15:00） 大槻　早紀 吉村　遥香 髙尾　美貴	中尾　志郎（午後）	★前川　有紀 時村　源一郎 丸田　知央子（10:00~15:00） 大槻　早紀 吉村　遥香 髙尾　美貴	★前川　有紀 時村　源一郎 大槻　早紀 吉村　遥香 髙尾　美貴
放射線科（治療）			★中村　太祐 武田　達哉			★中村　太祐 武田　達哉

※紹介状なしで受診を希望される患者さんにつきましては、診察料とは別に、選定療養費として7，700円をご負担いただきます。
ただし、紹介状がある場合は選定療養費（7，700円）の負担はありません。「かかりつけ医」等からの紹介状をお持ちいただきますようお願いいたします。

理　念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 救急医療の最後の砦となる
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する

長崎医療センター NEWS
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS
https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/
VOL.406